

東北文化学園専門学校同窓会 役員会 議事要録

日 場 出	時 所 者	平成22年12月9日(木) 19:05~21:00 東北文化学園専門学校 2号館2階会議室 立石浩一(会長) 加藤俊一(副会長) 須藤智裕(理事) 竹内寿禎(理事) 高橋勝則(顧問)
列	席 者	阿部光伸(東北文化学園専門学校事務部長) 以上6名
欠 資	席 者 料	津崎吾郎(副会長) 川崎美香(理事) 桃井清(監事) 1. 同窓会決算 平成17年度~平成21年度 2. 東北文化学園専門学校卒業制作展実施概要、依頼文 3. 提案書 4. 役員名簿

開催に先立ち、司会進行を高橋顧問が行なうことを承認した。また、阿部専門学校事務部長の列席を承認した。

5年ぶりの役員会開催となったため、出席者の近況報告を行なった。

議 事

1. 会計報告について

平成17年度以降諸事情により役員会を開催していなかったため、資料1を基に、平成17年度から平成21年度までの会計報告および事業報告が高橋からなされた。

適正に運用されていることは確認されたが、監査ができていないことから、今後整備し、過年度決算の監査を行なうこととした。

また、決算について公表すべきところをホームページの停止などの事情があり、実施されていない状況なので、今後早急に検討していくことを確認した。

同窓会費を現在2行に預けているがペイオフの観点から預ける金額を分散すべきとの意見も併せて出された。

2. 卒業制作展支援について

阿部専門学校事務部長から資料2に基き、平成22年度卒業制作展の概要について説明があり、支援依頼があった。

平成22年度は例年行なっているメディアテークの他に山形市での開催も計画しており、30万円の支援の要望がなされた。(例年20万円)意見交換後30万円の支援を行なうこととした。なお、理事から企画内容についてOBも参加できるような内容も盛り込んでとの意見が出された。このことについては次年度以降検討してもらうこととした。

3. 創立30周年に伴う寄贈品について

高橋顧問より、昨年、創立30周年記念式典が行なわれた旨説明があり、同窓会として記念に在校生に還元できる教育機器等の寄贈はできないか提案がなされた。

意見交換後、PCプロジェクター3台を寄贈することとした。機種選定については専門学校事務部に一任することとし、選定後、役員で確認することとした。また、寄贈の手続きも併せてお願いすることとした。

4. 今後の同窓会のあり方について

説明の前に昨年30周年記念式典で上映された「東北文化学園のあゆみ」の鑑賞を行なった。

その後、阿部専門学校事務部長から資料 3 を基に東北文化学園大学同窓会活動について派遣社員を同窓会で雇い、大学事務部に事務局を置き、名簿の整備や役員会、総会の運用、ホームページの開設などを行ってきた旨説明がなされた。

そして、将来的に大学の同窓会と専門学校の同窓会を包括した東北文化学園の同窓会として運用していけないか提案がなされた。

その背景には、学園が専門学校から発し、短大、大学、大学院を設置する規模にまで発展してきていること。過去に不幸な存続の危機があったが、皆で力を合わせてそれらを乗り越えて今があること。専門学校、短大、大学、大学院の卒業生が約 3 万人に達していること。これらを考えたとき、同窓会を包括して、学校と卒業生、在校生が連携できる仕組みを構築することにより、相互によりよい影響を創り上げられることや、一つの同窓会事務局として効率よく運営できそうなことが挙げられた。

意見交換後、同窓会を活発にすることにより、それぞれの同窓会費の資金が先細りしていくことが予想されることもあり、ここはまず専門学校の同窓会の整備を優先して行い、並行して大学同窓会と連携しながら同窓会のあり方の検討を重ねることとした。

その際、専門学校が考える同窓会との関わりの方針も確認しながら進める事も申し合わせた。

また、今後の同窓会業務を進めるために、優先して行なう業務を精査した上で、現在大学同窓会で雇用している事務員を専門学校同窓会も折半して雇用し、同窓会の整備を行なってもらい、経費節減を図ると共に役員改選も視野に入れた総会開催に向けた計画を進めていくことを申し合わせた。但し、雇用期間については 1 年以内とし、その後は進捗状況によって検討することとした。

なお、詳細な進め方については継続審議とした。

5. その他

次回の開催は 1 月下旬を予定することとした。

以上